

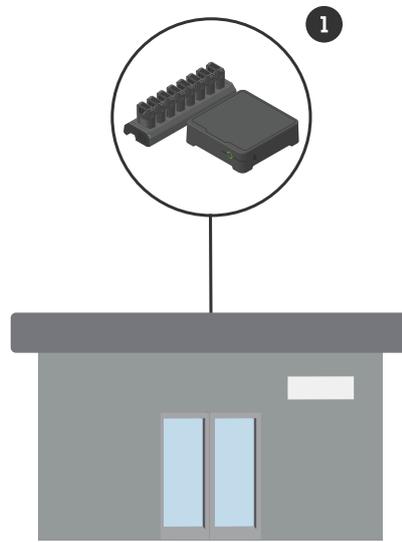
AXIS W401 Body Worn Activation Kit

目次

装置について.....	3
システムの概要	3
ソフトウェア要件.....	3
インストール.....	4
使用に当たって	5
ネットワーク上のデバイスを検索する.....	5
ブラウザサポート	5
装置のwebインターフェースを開く.....	5
管理者アカウントを作成する	5
安全なパスワード.....	6
デバイスのソフトウェアが改ざんされていないことを確認する	6
デバイスを構成する.....	7
イベントのルールを設定する	7
アクションをトリガーする	7
入力信号でいたずらを検知する.....	7
窓を開けたときにランプを点灯させる	8
カメラが動きを検知したときに、MQTT経由でBody Worn Activation Kitを作動させる	8
ボタンを押したときにロックを開く.....	10
webインターフェース	11
仕様	12
製品概要	12
.....	12
LEDインジケータ	12
ボタン	12
コントロールボタン	12
コネクタ	12
ネットワーク コネクタ	12
I/Oコネクタ	13
電源コネクタ	14
システムの設定.....	17
Bluetooth® ビーコン信号の受信	17
Bluetooth® ビーコン信号のブロードキャスト.....	17
プライバシーゾーンを設定する.....	18
トラブルシューティング	20
工場出荷時の設定にリセットする	20
AXIS OSのオプション	20
AXIS OSの現在のバージョンを確認する.....	20
AXIS OSをアップグレードする	21
技術的な問題と解決策	21
サポートに問い合わせる.....	23

装置について

システムの概要



本社のシステム

- 1 Axisボディ装着式システム

ソフトウェア要件

Axisボディ装着式システム - AXIS OSバージョン12.3以降

インストール

AXIS W401 Body Worn Activation Kitのインストール方法について詳しくは、製品のサポートページのインストールガイドを参照してください。

1. 録画の有効化装置をI/Oコネクタに接続します。製品概要, on page 12を参照してください。

注意

バッテリーのプラス端子とAXIS W401 Body Worn Activation Kitの間に2 Aヒューズを取り付けることをお勧めします。ハードウェアの取り付け方法がわからない場合は、専門の車両改造業者に取り付けを依頼してください。

2. 電源コネクタに電源を接続するか、PoEを使用して装置に電力を供給します。製品概要, on page 12を参照してください。

注

電源コネクタとPoEの両方が接続されている場合、ネットワーク接続はイーサネットケーブル経由で確立されます。

イーサネットケーブルを外すと、デバイスはワイヤレス接続に切り替わります。

使用に当たって

ネットワーク上のデバイスを検索する

Windows®で検索したAxisデバイスにIPアドレスの割り当てを行うには、AXIS IP UtilityまたはAXIS Device Managerを使用します。いずれのアプリケーションも無料で、axis.com/supportからダウンロードできます。

IPアドレスの検索や割り当てを行う方法の詳細については、*IPアドレスの割り当てとデバイスへのアクセス方法を参照してください。*

ブラウザーサポート

以下のブラウザーでデバイスを使用できます。

	Chrome™	Edge™	Firefox®	Safari®
Windows®	✓	✓	*	*
macOS®	✓	✓	*	*
Linux®	✓	✓	*	*
その他のオペレーティングシステム	*	*	*	*

✓: 推奨:

*: 制限付きでサポート

装置のwebインターフェースを開く

1. ブラウザーを開き、Axis装置のIPアドレスまたはホスト名を入力します。本製品のIPアドレスが不明な場合は、AXIS IP UtilityまたはAXIS Device Managerを使用して、ネットワーク上のデバイスを見つけます。
2. ユーザー名とパスワードを入力します。装置に初めてアクセスする場合は、管理者アカウントを作成する必要があります。管理者アカウントを作成する, *on page 5*を参照してください。

AXIS OS搭載デバイスのWebインターフェースのすべての機能および設定に関する説明は、AXIS OS Webインターフェースのヘルプを参照してください。

管理者アカウントを作成する

装置に初めてログインするときには、管理者アカウントを作成する必要があります。

1. ユーザー名を入力してください。
2. パスワードを入力します。安全なパスワード, *on page 6*を参照してください。
3. パスワードを再入力します。
4. 使用許諾契約書に同意します。
5. [Add account (アカウントを追加)] をクリックします。

重要

装置にはデフォルトのアカウントはありません。管理者アカウントのパスワードを紛失した場合は、装置をリセットする必要があります。工場出荷時の設定にリセットする, *on page 20*を参照してください。

安全なパスワード

重要

ネットワーク上でパスワードやその他の機密設定を行う場合は、HTTPS (デフォルトで有効になっています) を使用してください。HTTPSを使用すると、安全で暗号化された形でネットワークに接続できるため、パスワードなどの機密データを保護できます。

デバイスのパスワードは主にデータおよびサービスを保護します。Axisデバイスは、さまざまなタイプのインストールで使用できるようにするためパスワードポリシーを強制しません。

データを保護するために、次のことが強く推奨されています。

- 8文字以上のパスワードを使用する (できればパスワード生成プログラムで作成する)。
- パスワードを公開しない。
- 一定の期間ごとにパスワードを変更する (少なくとも年に1回)。

デバイスのソフトウェアが改ざんされていないことを確認する

装置に元のAXIS OSが搭載されていることを確認するか、またはセキュリティ攻撃が行われた後に装置を完全に制御するには、以下の手順に従います。

1. 工場出荷時の設定にリセットします。工場出荷時の設定にリセットする, on page 20を参照してください。
リセットを行うと、セキュアブートによって装置の状態が保証されます。
2. デバイスを設定し、インストールします。

デバイスを構成する

このセクションでは、ハードウェアのインストールが完了した後に製品を起動して実行するために、設置者が行う必要のあるすべての重要な設定について説明しています。

イベントのルールを設定する

詳細については、「イベントのルールの使用開始」を参照してください。

アクションをトリガーする

1. [System > Events (システム > イベント)] に移動し、ルールを追加します。このルールでは、装置が特定のアクションを実行するタイミングを定義します。ルールは、スケジュールや繰り返しとして設定することも、手動でトリガーするように設定することもできます。
2. [Name (名前)] に入力します。
3. アクションをトリガーするために満たす必要がある [Condition (条件)] を選択します。ルールに複数の条件を指定した場合は、すべての条件が満たされたときにアクションがトリガーされます。
4. 条件が満たされたら実行する Action (アクション) を選択します。

注

- アクティブなルールを変更する場合は、ルールを再度オンにして変更内容を有効にする必要があります。

入力信号でいたずらを検知する

この例では、入力信号が切断された場合やショートした場合に電子メールを送信する方法について説明します。I/Oコネクタの詳細については、page 13を参照してください。

1. System (システム) > Accessories (アクセサリ) > I/O ports (I/Oポート) に移動し、該当するポートで Supervised (状態監視) をオンにします。

メール送信先を追加する:

1. [System > Events > Recipients (システム > イベント > 送信先)] に移動し、送信先を追加します。
2. 送信先の名前を入力します。
3. 通知のタイプとして電子メールを選択します。
4. 送信先の電子メールアドレスを入力します。
5. カメラが通知を送信する際の、送信元電子メールアドレスを入力します。
6. 電子メール送信用アカウントのログイン詳細とSMTPホスト名、ポート番号を入力します。
7. 電子メールの設定をテストするには、[Test (テスト)] をクリックします。
8. [保存] をクリックします。

ルールの作成:

1. [System > Events > Rules (システム > イベント > ルール)] に移動し、ルールを追加します。
2. ルールの名前を入力します。
3. [I/O (入力/出力)] の条件のリストで、[Supervised input tampering is active (いたずら状態監視を有効化する)] を選択します。
4. 該当するポートを選択します。
5. [Notifications (通知)] のアクションのリストで、[Send notification to email (電子メールに通知を送る)] を選択し、リストから送信先を選択します。

6. 電子メールの件名とメッセージを入力します。
7. [保存] をクリックします。

窓を開けたときにランプを点灯させる

この例では、窓の接点をBody Worn Activation Kitに接続する方法と、接点を取り付けられた窓が開いたときにランプを点灯させるイベントの設定方法について説明します。

要件

- 2ワイヤーケーブル (アース、I/O) を窓の接点とBody Worn Activation KitのI/Oコネクタに接続します。
- ランプを電源とBody Worn Activation Kitのリレーコネクタに接続します。

Body Worn Activation KitでI/Oポートを設定する

1. [System > Accessories (システム > アクセサリー)] に移動します。
2. 以下の情報を [Port 1 (ポート1)] に入力します。
 - 名前:窓センサー
 - Direction (方向): 入力
 - 標準の状態: 閉路
3. 以下の情報を [Port 2 (ポート 2)] に入力します。
 - 名前:ランプ
 - Direction (方向): 出力
 - 標準の状態: 開路

Body Worn Activation Kitで2つのルールを作成する

1. [System > Events (システム > イベント)] に移動し、ルールを追加します。
2. 以下の情報を入力します。
 - 名前:窓センサー
 - Condition (条件): デジタル入力
[Use this condition as a trigger (この条件をトリガーとして使用する)] を選択します。
 - ポート: 窓センサー
 - Action (アクション): ルールがアクティブである間、I/Oを切り替える
 - ポート: ランプ
 - State (状態): アクティブ
3. [保存] をクリックします。

カメラが動きを検知したときに、MQTT経由でBody Worn Activation Kitを作動させる

要件

- Body Worn Activation KitのI/Oポート1にデバイスを設定します。
- MQTTブローカーを設定し、ブローカーのIPアドレス、ユーザー名、パスワードを取得します。
- カメラで AXIS Motion Guardを設定します。

カメラでMQTTクライアントを設定する

1. カメラの装置インターフェースで、[System > MQTT > MQTT client > Broker (システム > MQTT > MQTTクライアント > ブローカー)] にアクセスし、以下の情報を入力します。
 - [ホスト]:ブローカーIPアドレス
 - Client ID (クライアントID) : 例: カメラ1
 - Protocol (プロトコル):ブローカーが設定したプロトコル

- ポート:ブローカーが使用するポート番号
- ブローカーの Username (ユーザー名) と Password (パスワード)

2. [Save (保存)]をクリックし、[Connect (接続)]をクリックします。

MQTTパブリッシングのためにカメラで2つのルールを作成する

1. [System > Events > Rules (システム > イベント > ルール)] に移動し、ルールを追加します。
2. 以下の情報を入力します。
 - 名前:動体を検知しました
 - Condition (条件): Applications > Motion alarm (アプリケーション > モーションアラーム)
 - Action (アクション):[MQTT] > [Send MQTT publish message (MQTT公開メッセージを送信)]
 - Topic (トピック):動き
 - Payload (ペイロード):オン
 - QoS:0、1、または2
3. [保存] をクリックします。
4. 次の情報を含む別のルールを追加します。
 - 名前:動きなし
 - Condition (条件): Applications > Motion alarm (アプリケーション > モーションアラーム)
 - [Invert this condition (この条件を逆にする)] を選択します。
 - Action (アクション):[MQTT] > [Send MQTT publish message (MQTT公開メッセージを送信)]
 - Topic (トピック):動き
 - Payload (ペイロード):オフ
 - QoS:0、1、または2
5. [保存] をクリックします。

Body Worn Activation KitにMQTTクライアントを設定する

1. Body Worn Activation Kitのデバイスインターフェースで [System (システム)] > [MQTT] > [MQTT client (MQTTクライアント)] > [Broker (ブローカー)] にアクセスし、以下の情報を入力します。
 - [ホスト]:ブローカーIPアドレス
 - Client ID (クライアントID): ポート1
 - Protocol (プロトコル):ブローカーが設定したプロトコル
 - ポート:ブローカーが使用するポート番号
 - Username (ユーザー名) と Password (パスワード)
2. [Save (保存)]をクリックし、[Connect (接続)]をクリックします。
3. [MQTT subscriptions (MQTTサブスクリプション)] に移動し、サブスクリプションを追加します。

以下の情報を入力します。

 - サブスクリプションフィルター:動き
 - サブスクリプションの種類:ステートフル
 - QoS:0、1、または2
4. [保存] をクリックします。

Body Worn Activation KitでMQTTサブスクリプションのルールを作成する

1. [System > Events > Rules (システム > イベント > ルール)] に移動し、ルールを追加します。
2. 以下の情報を入力します。
 - 名前: 動体を検知しました
 - Condition (条件): [MQTT] > [Stateful (ステートフル)]
 - サブスクリプションフィルター: 動き
 - Payload (ペイロード): オン
 - Action (アクション): I/O > Toggle I/O while the rule is active (ルールがアクティブである間、I/Oを切り替える)
 - Port (ポート): I/O 1。
3. [保存] をクリックします。

ボタンを押したときにロックを開く

この例では、Body Worn Activation Kitにリレーを接続する方法と、Body Worn Activation Kitに接続されたボタンが押されたときにロックを解除するイベントを設定する方法について説明します。

要件

- 2ワイヤーケーブル (COM、NO) をロックおよびBody Worn Activation Kitのリレーコネクタに接続します。
- 2ワイヤーケーブル (アース、I/O) をボタンとBody Worn Activation KitのI/Oコネクタに接続します。

Body Worn Activation KitでI/Oポートを設定する

1. [System > Accessories (システム > アクセサリー)] に移動します。
2. 以下の情報を入力します。
 - 名前: ボタン
 - Direction (方向): 入力
 - 標準の状態: 開路
3. 以下の情報を入力します。
 - 名前: ロック
 - 標準の状態: 開路

Body Worn Activation Kitでルールを作成する

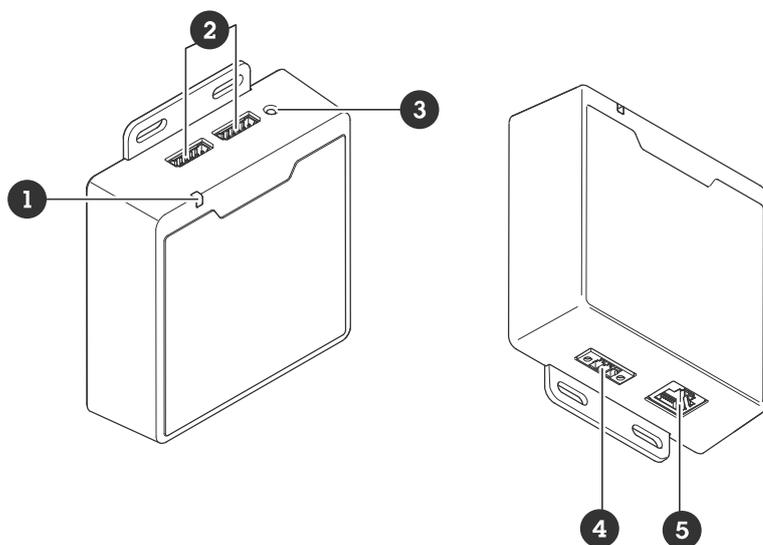
1. [System > Events (システム > イベント)] に移動し、ルールを追加します。
2. 以下の情報を入力します。
 - 名前: ロックを開く
 - Condition (条件): [I/O] > [Digital input is active (デジタル入力アクティブ)] [Use this condition as a trigger (この条件をトリガーとして使用する)] を選択します。
 - ポート: ボタン
 - Action (アクション): [I/O] > [Toggle I/O once (I/Oを一度切り替える)]
 - ポート: ロック
 - State (状態): アクティブ
 - Duration (継続時間): 10秒
3. [保存] をクリックします。

webインターフェース

AXIS OS搭載デバイスのWebインターフェースで利用可能なすべての機能と設定については、*AXIS OS Webインターフェースのヘルプ*に移動します。

仕様

製品概要



- 1 ステータスLED
- 2 I/Oコネクタ×2
- 3 コントロールボタン
- 4 電源コネクタ
- 5 RJ45イーサネットコネクタ

LEDインジケータ

ステータスLED	説明
緑	正常動作であれば緑色に点灯します。
オレンジ	起動時に点灯し、装置のソフトウェアのアップグレード中に点滅します。
赤	装置のソフトウェアのアップグレードに失敗すると、赤色に点滅します。

ボタン

コントロールボタン

コントロールボタンは、以下の用途で使します。

- ・ 製品を工場出荷時の設定にリセットする。工場出荷時の設定にリセットする, on page 20を参照してください。
- ・ インターネット経由でワンクリッククラウド接続 (O3C) サービスに接続します。接続するには、ボタンを押してから放し、ステータスLEDが緑色に3回点滅するまで待ちます。

コネクタ

ネットワーク コネクタ

RJ45イーサネットコネクタ。

入力:Power over Ethernet (PoE) 対応RJ45イーサネットコネクタ

出力:Power over Ethernet (PoE) 対応RJ45イーサネットコネクタ－

I/Oコネクタ－

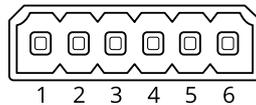
I/Oコネクタ－に外部装置を接続し、動体検知、イベントトリガ－、アラ－ム通知などと組み合わせ使用することができます。I/Oコネクタ－は、0 VDC基準点と電力 (12 V DC出力) に加えて、以下のインターフェ－スを提供します。

デジタル入力 - 開回路と閉回路の切り替えが可能な装置 (PIRセンサー、ドア/窓の接触、ガラス破損検知器など) を接続するための入力です。

状態監視入力 - デジタル入力のいたずらを検知する機能が有効になります。

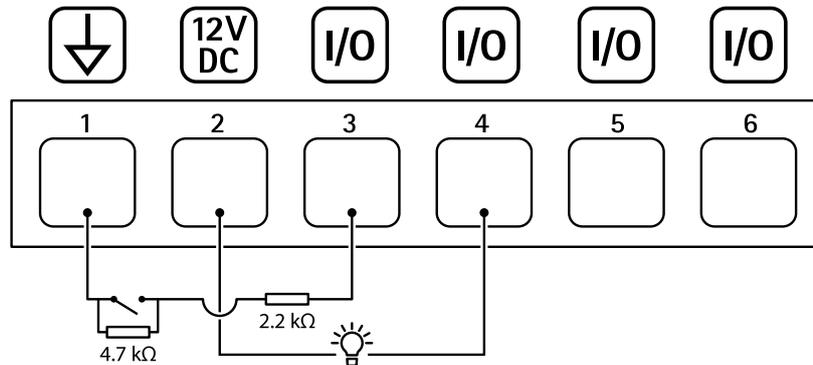
デジタル出力 - リレーやLEDなどの外部装置を接続します。接続された装置は、VAPIX®アプリケーションプログラミングインターフェ－スを通じたイベントまたは本装置のwebインターフェ－スから有効にすることができます。

6ピンターミナルブロック



機能	ピン	メモ	仕様
DCアース	1		0 VDC
DC出力	2	 補助装置の電源供給に使用できます。 注:このピンは、電源出力としてのみ使用できません。	12VDC 最大負荷 = 50 mA
設定可能 (入力または出力)	3-6	デジタル入力/状態監視 - 動作させるにはピン1に接続し、動作させない場合はフロート状態 (未接続) のままにします。状態監視を使用するには、終端抵抗器を設置します。抵抗器を接続する方法については、接続図を参照してください。	0~30 VDC (最大)
		デジタル出力 - アクティブ時はピン1 (DCアース) に内部で接続し、非アクティブ時はフロート状態 (未接続) になります。リレーなどの誘導負荷とともに使用する場合は、過渡電圧から保護するために、負荷と並列にダイオードを接続します。	0~30 VDC (最大)、 オープンドレイン、 100 mA

例:



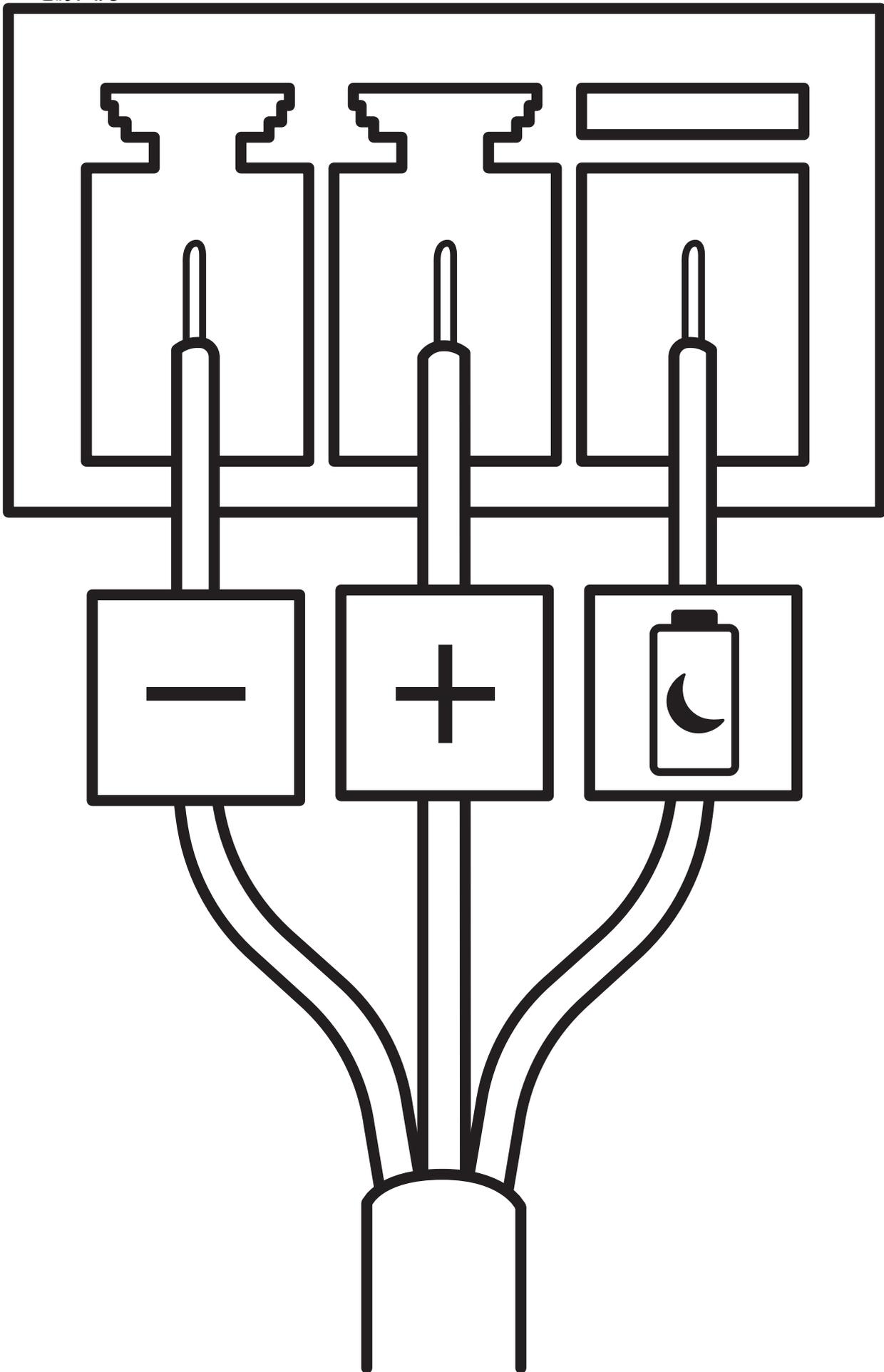
- 1 DCアース
- 2 DC出力12 V、最大50 mA

- 3 I/O (状態監視として設定)
- 4 I/O (出力として設定)
- 5 設定可能I/O
- 6 設定可能I/O

電源コネクタ

電源入力用3ピンターミナルブロック。定格出力が**100 W**以下または**5 A**以下の安全特別低電圧 (SELV) に準拠した有限電源 (LPS) を使用してください。

DC電源入力:



シャットダウンの遅延

重要

不要なシャットダウンを避けるため、イグニッションがメインユニットに物理的に接続されている場合にのみ、[Delayed shutdown (シャットダウンの遅延)] をオンにしてください。

注

電源を入れる前に装置に電源が供給されていなかった場合、[Delayed shutdown (シャットダウンの遅延)] がアクティブになる前に遅延が発生します。

1. 3ピンターミナルブロックのイグニッションコントロールに接続します。
2. 装置のwebインターフェースに移動します。
3. [System > Power settings (システム > 電源設定)] に移動し、[Delayed shutdown (シャットダウンの遅延)] をオンにします。
4. 遅延時間を1~60分に設定します。

システムの設定

Bluetooth® ビーコン信号の受信

以下は、AXIS Body Worn Activation Kitを使用してBluetoothビーコン信号を受信するための設定方法について説明しています。

Body Worn Activation Kitの設定

1. [System > Events (システム > イベント)] に移動し、ルールを追加します。
2. 条件リストで、[Bluetooth beacon signal received (Bluetoothビーコン信号の受信)] を選択します。
3. [System ID (システムID)] に、装着式システムのIDを入力します。IDは、AXIS Body Worn Managerの [About (概要)] メニューで確認できます。
4. 装置が接続されているポートを選択します。
5. アクションのリストで、いずれかのアクションを選択します。

装着式システムの設定

1. Axis装着式ソリューションユーザーマニュアルに従って、装着式システムをインストールします。
2. AXIS Body Worn Managerで、[Camera profiles (カメラプロファイル)] に移動し、車載システムに使用するカメラプロファイルを選択します。
3. [Recording activation (録画の開始)] で、[Broadcast wireless signal (ワイヤレス信号をブロードキャスト)] を選択します。

Bluetooth® ビーコン信号のブロードキャスト

以下は、AXIS Body Worn Activation Kitを使用してBluetoothビーコン信号をブロードキャストするための設定方法について説明しています。

AXIS Body Worn Activation Kitの設定

1. 以下のように、録画の有効化入力を設定します。
 - 1.1. [System (システム)] > [Accessories (アクセサリ)] に移動します。
 - 1.2. デバイスを接続したポートで、 をクリックして入力方向を設定します。
2. ルールの作成:
 - 2.1. [System > Events (システム > イベント)] に移動し、ルールを追加します。
 - 2.2. 条件の一覧で、[Digital input is active (デジタル入力アクティブ)] を選択します。
 - 2.3. 装置が接続されているポートを選択します。
 - 2.4. アクションのリストで、[Broadcast signal (ブロードキャスト信号)] を選択します。
 - 2.5. [System ID (システムID)] に、装着式システムのIDを入力します。IDは、AXIS Body Worn Managerの [About (概要)] メニューで確認できます。
 - 2.6. [Message type (メッセージタイプ)] に1を入力して、メッセージ lightbar active をブロードキャストします。

装着式システムの設定

1. Axis装着式ソリューションユーザーマニュアルに従って、装着式システムをインストールします。
2. AXIS Body Worn Managerで、[Camera profiles (カメラプロファイル)] に移動し、車載システムに使用するカメラプロファイルを選択します。
3. [Recording activation (録画のアクティブ化)] で、[Receive wireless broadcast (ワイヤレスブロードキャストの受信)] を選択します。

プライバシーゾーンを設定する

カメラのユーザーに、録画してはいけない機密区域に入ったことを知らせるため、プライバシーゾーンを設定することができます。ユーザーが機密区域に入力すると、カメラが振動し、3回ビープ音を鳴らすか、または音声クリップを再生します。ユーザーがプライバシーゾーンに2分間留まり、継続中の録画を停止しなかった場合、新規の通知が届きます。

要件

AXIS W401Body Worn Activation Kitが、機密区域に設置されていること。

この例では、AXIS W401Body Worn Activation Kitが3秒ごとにワイヤレス信号を送信するように設定します。

1. AXIS Body Worn Managerで、**[Camera profiles (カメラプロフィール)]**  に移動します。
2. 編集したいカメラプロファイルを開き、**[Privacy zone (プライバシーゾーン)]** へ移動します。
3. **[Privacy zone broadcast response (プライバシーゾーン放送応答)]** で、**[Alert (アラート)]** を選択します。
4. 録画中のみアラートを受け取るには、**[Alert settings (アラート設定)]** を **[Alert when recording (録画中のみアラートを受け取る)]** に設定します。録画中ではないときにもアラートを受け取るには、**[Always alert (常にアラートを受け取る)]** に設定します。
5. **[Settings (設定)]**  > **[Camera (カメラ)]** > **[Wireless broadcast (ワイヤレスブロードキャスト)]**の順に移動します。
6. **[Show key (キーを表示)]**をクリックします。
7. スーパーアドミンパスワードを入力して、**[Confirm (確認)]** をクリックします。
8. 表示されたキーをコピーします。
9. AXIS W401のWebインターフェースで、**[System (システム)]** > **[Events (イベント)]** > **[Schedules (スケジュール)]** の順に移動して、スケジュールを追加します。
10. スケジュールの名称を入力します (例: Every 3 seconds)。
11. **[Type (タイプ)]** で、**[Pulse (パルス)]** を選択します。
12. **[Recurrence (繰り返し)]** で3 とタイプします。
13. **[保存]** をクリックします。
14. **[Rules (ルール)]** をクリックし、ルールを追加します。
15. ルールの名称を入力します (例: Privacy zone)。
16. 条件のリストで、**[Scheduled and recurring (スケジュールおよび繰り返し)]** の項目で **[Pulse (パルス)]** を選択します。
17. **[Pulse (パルス)]** で、自身で作成したスケジュールを選択します。
18. アクションのリストで、**[Broadcast signal (ブロードキャスト信号)]** を選択します。
19. プロトコルのリストから、**[Wireless broadcast key (ワイヤレスブロードキャストキー)]** を選択します。
20. 装着式システムから取得したキーを、**[Wireless broadcast key (ワイヤレスブロードキャストキー)]** に貼り付けます。
21. **[Message type (メッセージタイプ)]** で、**[Activate privacy zone (プライバシーゾーンを有効にする)]** を選択します。
22. **[保存]** をクリックします。
23. 以下の手順で、ワイヤレスブロードキャストの到達範囲を調整します。

- AXIS W401のWebインターフェースで、[System (システム)] > [Plain config (プレーン設定)] の順に移動します。
- グループのリストから [Wireless (ワイヤレス)] を選択します。
- [Range (範囲)] で0から30までの数値を設定します。
プライバシーゾーンが狭い場合や壁が薄い場合には、小さい数値を設定します。
- [保存] をクリックします。

トラブルシューティング

工場出荷時の設定にリセットする

重要

工場出荷時の設定へのリセットは慎重に行ってください。工場出荷時の設定へのリセットを行うと、IPアドレスを含むすべての設定が工場出荷時の値にリセットされます。

本製品を工場出荷時の設定にリセットするには、以下の手順に従います。

1. 本製品の電源を切ります。
2. コントロールボタンを押した状態で電源を再接続します。製品概要, on page 12を参照してください。
3. ステータスLEDインジケーターがオレンジで点滅するまでコントロールボタンを15~30秒間押し続けます。
4. コントロールボタンを放します。プロセスが完了すると、ステータスLEDが緑色に変わります。ネットワーク上にDHCPサーバーがない場合、装置のIPアドレスのデフォルトは次のいずれかになります。
 - **AXIS OS 12.0以降の装置:** リンクローカルアドレスサブネット (169.254.0.0/16) から取得
 - **AXIS OS 11.11以前の装置:** 192.168.0.90/24
5. インストールおよび管理ソフトウェアツールを使用して、IPアドレスの割り当て、パスワードの設定、装置へのアクセスを行います。
axis.com/supportのサポートページに、インストールおよび管理ソフトウェアツールが用意されています。

装置のwebインターフェースを使用して、各種パラメーターを工場出荷時の設定に戻すこともできます。[Maintenance (メンテナンス) > Factory default (工場出荷時の設定)] に移動し、[Default (デフォルト)] をクリックします。

AXIS OSのオプション

Axisは、アクティブトラックまたは長期サポート (LTS) トラックのどちらかに従って、装置のソフトウェアの管理を提供します。アクティブトラックでは、最新の製品機能すべてに常時アクセスできますが、LTSトラックの場合、バグフィックスやセキュリティ更新に重点を置いた定期的リリースが提供される固定プラットフォームを使用します。

最新の機能にアクセスする場合や、Axisのエンドツーエンドシステム製品を使用する場合は、アクティブトラックのAXIS OSを使用することをお勧めします。最新のアクティブトラックに対して継続的な検証が行われないサードパーティの統合を使用する場合は、LTSトラックをお勧めします。LTSにより、大きな機能的な変更や既存の統合に影響を与えることなく、サイバーセキュリティを維持することができます。Axis装置のソフトウェア戦略の詳細については、axis.com/support/device-softwareにアクセスしてください。

AXIS OSの現在のバージョンを確認する

装置の機能はAXIS OSによって決まります。問題のトラブルシューティングを行う際は、まずAXIS OSの現在のバージョンを確認することをお勧めします。最新バージョンには、特定の問題の修正が含まれていることがあります。

AXIS OSの現在のバージョンを確認するには:

1. 装置のwebインターフェース > [Status (ステータス)] に移動します。
2. [Device info (デバイス情報)] で、AXIS OSのバージョンを確認します。

AXIS OSをアップグレードする

重要

- デバイスソフトウェアのアップグレードでは、既定の設定とカスタマイズ設定が保存されます。Axis Communications ABは、新しいAXIS OSバージョンで機能が利用可能であっても、設定が保存されることを保証できません。
- AXIS OS 12.6以降、お使いのデバイスの現在のバージョンからアップグレードバージョンまでのすべてのLTSバージョンをインストールする必要があります。たとえば、現在インストールされているデバイスソフトウェアのバージョンがAXIS OS 11.2の場合、デバイスをAXIS OS 12.6にアップグレードする前に、LTSバージョンであるAXIS OS 11.11をインストールする必要があります。詳しくは、*AXIS OS Portal: アップグレードパス*を参照してください。
- アップグレードプロセス中は、デバイスを電源に接続したままにしてください。

注

- アクティブトラックのAXIS OSの最新バージョンで装置をアップグレードすると、製品に最新機能が追加されます。アップグレードする前に、AXIS OSと共に提供されるアップグレード手順とリリースノートを必ずお読みください。AXIS OSの最新バージョンとリリースノートについては、axis.com/support/device-software/にアクセスしてください。
1. AXIS OSのファイルをコンピューターにダウンロードします。これらのファイルはaxis.com/support/device-software/から無料で入手できます。
 2. デバイ스에 管理者としてログインします。
 3. **[Maintenance (メンテナンス)] > [AXIS OS upgrade (AXIS OSのアップグレード)]** に移動し、**[Upgrade (アップグレード)]** をクリックします。

アップグレードが完了すると、製品は自動的に再起動します。

技術的な問題と解決策

AXIS OSのアップグレード時の問題

AXIS OSアップグレード失敗

アップグレードに失敗した場合、装置は前のバージョンを再度読み込みます。最も一般的な理由は、AXIS OSの間違ったファイルがアップロードされた場合です。装置に対応したAXIS OSのファイル名であることを確認し、再試行してください。

AXIS OSのアップグレード後の問題

アップグレード後に問題が発生する場合は、**[Maintenance (メンテナンス)]** ページから、以前にインストールされたバージョンにロールバックします。

IPアドレスの設定で問題が発生する

IPアドレスを設定できない

- デバイス用のIPアドレスと、デバイスへのアクセスに使用するコンピューターのIPアドレスが異なるサブネットにある場合は、IPアドレスを設定することはできません。ネットワーク管理者に連絡して、適切なIPアドレスを取得してください。
- そのIPアドレスは別のデバイスで使用されている可能性があります。以下の手順で確認してください。
 1. デバイスをネットワークから切断します。
 2. コマンドウィンドウまたはDOSウィンドウで、pingコマンドとデバイスのIPアドレスを入力します。
 3. Reply from <IP address>: bytes=32; time=10...という応答を受取った場合は、ネットワーク上の別のデバイスでそのIPアドレスがすでに使われている可能性があります。ネットワーク管理者から新しいIPアドレスを取得し、デバイスを再度インストールしてください。
 4. Request timed outが表示された場合は、AxisデバイスでそのIPアドレスを使用できません。この場合は、すべてのケーブル配線をチェックし、デバイスを再度インストールしてください。
- 同じサブネット上の別のデバイスとIPアドレスの競合が発生している可能性があります。DHCPサーバーによって動的アドレスが設定される前は、Axisデバイスは静的IPアドレスを使用します。つまり、デフォルトの静的IPアドレスが別のデバイスでも使用されていると、デバイスへのアクセスに問題が発生する可能性があります。

デバイスへのアクセスの問題

ブラウザからデバイスにアクセスする際、ログインできない

HTTPSが有効になっている場合、ログインを試行するときに正しいプロトコル (HTTPまたはHTTPS) を使用していることを確認します。場合によっては、ブラウザのアドレスフィールドに手動でhttpまたはhttpsを入力する必要があります。

rootアカウントのパスワードを忘れた場合は、デバイスを工場出荷時の設定にリセットする必要があります。手順については、工場出荷時の設定にリセットする, *on page 20*を参照してください。

DHCPによってIPアドレスが変更された

DHCPサーバーから取得したIPアドレスは動的なアドレスであり、変更されることがあります。IPアドレスが変更された場合は、AXIS IP UtilityまたはAXIS Device Managerを使用してデバイスのネットワーク上の場所を特定してください。デバイスのモデルまたはシリアル番号、あるいはDNS名 (設定されている場合) を使用してデバイスを識別します。

必要に応じて、静的なIPアドレスを手動で割り当てることができます。手順については、axis.com/supportにアクセスしてください。

IEEE 802.1X使用時の証明書エラー

認証を正しく行うには、Axisデバイスの日付と時刻をNTPサーバーと同期させなければなりません。[System (システム) > Date and time (日付と時刻)] に移動します。

ブラウザがサポートされていません

推奨ブラウザの一覧は、[ブラウザーサポート](#), *on page 5*を参照してください。

外部からデバイスにアクセスできません

装置に外部からアクセスする場合は、以下のいずれかのWindows®向けアプリケーションを使用することをお勧めします。

- AXIS Camera Station Edge：無料で使用でき、最小限の監視が必要な小規模システムに最適です。
- AXIS Camera Station Pro:90日間の試用版を無料で使用でき、中小規模のシステムに最適です。

手順とダウンロードについては、axis.com/vmslにアクセスしてください。

MQTTの問題

MQTTオーバSSLを使用してポート8883経由で接続できない

ファイアウォールは、ポート8883を使用する通信を安全ではないとみなし、ブロックします。

場合によっては、サーバー/ブローカーによってMQTT通信用に特定のポートが提供されていない可能性があります。この場合でも、HTTP/HTTPSトラフィックに通常使用されるポート経由でMQTTを使用できる場合もあります。

- サーバー/ブローカーが、通常はポート443経由で、WebSocket/WebSocket Secure (WS/WSS) をサポートしている場合は、代わりにこのプロトコルを使用してください。サーバー/ブローカープロバイダーに問い合わせ、WS/WSSがサポートされているかどうか、どのポートと基本パスを使用するかを確認してください。
- サーバー/ブローカーがALPNをサポートしている場合、MQTTの使用は443などのオープンポートでネゴシエートできます。ALPNのサポートの有無、使用するALPNプロトコルとポートについては、サーバー/ブローカーのプロバイダーに確認してください。

デバイスの動作に関する問題

フロントヒーターとワイパーが作動していない

フロントヒーターまたはワイパーがオンにならない場合は、上部カバーがハウジングユニットの底部に正しく固定されているか確認してください。

このページで解決策が見つからない場合は、axis.com/supportのトラブルシューティングセクションに記載されている方法を試してみてください。

サポートに問い合わせる

さらにサポートが必要な場合は、axis.com/supportにアクセスしてください。

T10220834_ja

2026-02 (M8.2)

© 2025 – 2026 Axis Communications AB